

第33回
日本生命倫理学会
年次大会

<大会テーマ>
生命倫理学の転換期

◆開催方法：WEB 開催

◆会期

ライブ配信：2021年11月27日（土）・11月28日（日）

オンデマンド配信：2021年11月27日（土）～12月12日（日）

日本生命倫理学会

大会長挨拶

大会長 樽井 正義（慶應義塾大学）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、私たちの社会と医療の場に大きな衝撃を与えています。年に一度一堂に会して討議を行う場であるこの年次大会も、昨年が続いてオンラインで開催せざるをえなくなったのもそのためです。

社会的距離をとる予防策は、とくに医療の場において感染者と治療に当たる医療者はもとより、一般の医療者、患者、家族の間の関わりにも求められ、患者の福祉に必須な面会から看取りまでも、また ACP など医療方針の自己決定を支える対話も、当初はほとんど不可能になり、いまでも大きな制約を受けています。患者の福祉の向上と自己決定の尊重について、生命倫理学はこれまで多くの議論を積み重ねてきましたが、流行のなかで医療の本質とよりよいケアのあり方が改めて問われています。

流行の拡大に伴い、医療器機と病室、なによりも保健所と病院における医療専門職が限られるゆえに、少なからぬ感染者が医療を受けられずに高齢者施設や自宅、それどころか路上で死に至る事態が、また医療機関にあっても、場合によっては必要な医療が行えない可能性を、医療者と患者があらかじめ受け入れざるをえない事態が、現実となっています。医療資源の整備とともにその公正な配分は、生命倫理学にとって重要な課題であり、流行を別にしても、私たちの社会で弱い立場に置かれた少数者と多数者との関係のあり方として問われてきましたが、流行のなかで高齢者や単身生活者が、そして私たち自身が直面させられる課題になっています。

流行がもたらしたこうした課題に取り組むよう、生命倫理学には転換が求められていますが、転換が要請される領域はそれに限られません。臨床倫理と呼ばれる領域では、新規治療法の提案、生命維持治療の拒否あるいは差し控え、患者と医療者間のハラスメントなど多岐にわたる困難な事例について、医療機関の倫理委員会での審議やコンサルテーションが行われ、地域でも検討や学習が進められて、多くの会員が貢献されています。その多様な実践の現状を見渡し、役割の整理や基盤を整備することが求められています。

今回の年次大会では、こうした課題を議論する場が計画され、また会員からも多くの企画と発表が寄せられました。開催にあたっては、前年度大会を主催された静岡大学の松田純大会長と堂園俊彦実行委員長から大きなご助力をいただきました。学会事務局、情報委員会、企画委員会、国際交流委員会、研究開発委員会のみなさまからも多くのご協力をいただきました。またプログラムの作成と運営には、実行委員のみなさまにご尽力いただきました。すべてを調整する実務の一切は奈良雅俊実行委員長にご担当いただきました。みなさまのお力添えにこころより感謝を申し上げますとともに、みのりある議論の場となることに、みなさまとともに期待いたします。

第33回年次大会実行委員会

大会長	樽井 正義	(慶應義塾大学)
実行委員長	奈良 雅俊	(慶應義塾大学)
実行委員	伊吹 友秀	(東京理科大学)
	児玉 聡	(京都大学大学院)
	瀧本 禎之	(東京大学大学院)
	田代 志門	(東北大学大学院)
	前田 正一	(慶應義塾大学大学院)
	宮脇 美保子	(慶應義塾大学)
	美馬 達哉	(学会企画委員長、立命館大学大学院)
	河原 直人	(学会情報委員長、九州大学病院)
	田中 智彦	(学会事務局長、東洋英和女学院大学)

参加者へのご案内

第33回日本生命倫理学会年次大会は、オンライン会議システム（ZOOM）および学会ウェブサイトを利用して開催いたします。年次大会に関する最新情報は、学会ウェブサイトにて随時ご案内しておりますので、あわせてご参照ください。

1. 開催期間

- ZOOMによるライブ配信：11月27日（土）・28日（日）
⇒ 11月30日（火）以降、ライブ配信した映像をご覧ください。
- 学会ウェブサイト上でのオンデマンド配信：11月27日（土）～12月12日（日）

ライブ配信	オンデマンド配信
<ul style="list-style-type: none">• 学会企画シンポジウム• 大会企画シンポジウム• 公募シンポジウム• 公募ワークショップ• 国際交流委員会企画国際シンポジウム• 若手優秀賞候補者セッション• 若手論文奨励賞受賞者を囲んで	<ul style="list-style-type: none">• 一般演題 <p style="text-align: center;">11月30日以降</p> <ul style="list-style-type: none">• 学会企画シンポジウム• 大会企画シンポジウム• 公募シンポジウム• 公募ワークショップ• 国際交流委員会企画国際シンポジウム• 若手優秀賞候補者セッション• 若手論文奨励賞受賞者を囲んで

2. 参加申し込み

年次大会へ参加するには、事前登録が必要になります。会員と非会員では、事前登録の方法が異なりますので、ご注意ください。

◆ 参加登録期間

2021年10月8日（金）～12月11日（土）

※ ZOOMによるライブ配信をご覧になりたい方は、11月25日（木）までにご登録ください。

◆ 参加登録方法

【日本生命倫理学会会員の方の参加登録方法】

1. 日本生命倫理学会会員専用サイト (<https://c3.members-support.jp/ja-bioethics/>) にアクセスしてください。
2. ログインID（会員番号）とパスワードを入力し、ログインしてください。
3. パスワードをお忘れの場合は「パスワードを忘れた方はこちら」をクリックしてください。
4. ログインID（会員番号）を忘れた方は事務局（[admin\[at\]ja-bioethics.jp](mailto:admin[at]ja-bioethics.jp)）へお問い合わせください。
5. 「イベント情報」⇒「イベント申込」に進んでください。

6. イベント名「第33回 年次大会（東京）ーオンライン開催」の欄の「受付中」より、お申し込みを開始してください。
7. お申し込み終了後、ご登録のメールアドレスに大会参加者専用サイトのパスワードをお送りします。

※ 不具合等のお問い合わせは以下までお願い申し上げます

しくみねっとサポート (<https://c3.members-support.jp/ja-bioethics/InquiryForms>)

情報委員会 ([information\[at\]ja.bioethics.jp](mailto:information[at]ja.bioethics.jp))

【非会員・一般の方の参加登録方法】

1. Peatix 経由で登録をしていただきます。
2. <https://ja-bioethics-conference-33.peatix.com> にアクセスし、ナビゲーションに沿って登録を開始してください。

3. 参加費

- 正会員： 5,000 円
- 学生会員・会友： 2,000 円
- 非会員： 6,000 円

※ 参加登録後のお申込み取消しは、お受けいたしかねます。お支払いいただいた参加登録費は返金いたしません。

※ 2021 年度の会費を未納入の日本生命倫理学会会員の皆様は、非会員の価格が適用されます。大会参加登録に先立って、2021 年度分の会費をご納入ください。

ご参加にあたっての注意点

1. ライブ配信 (ZOOMミーティング・ウェビナー) 参加の注意点

- ZOOMミーティング・ウェビナーへの接続方法については、大会ウェブサイトの参加登録・案内に掲載されている「Zoomウェビナーの接続の仕方」を参照して下さい。
- 複数の動画を同時に視聴することはできません。
- 安定な通信のため、有線LANでの接続を推奨します。
- スマートフォンでの視聴は推奨しておりません。
- ZOOM ミーティング・ウェビナーの内容を何らかの方法で録画・録音しないでください。
- ZOOM ミーティング・ウェビナーの ID、パスワードを他人に知らせないでください。

2. オンデマンド配信に関する注意点

- 動画コンテンツを端末にダウンロードしないでください。
- 発表資料、参考資料など大会参加者専用サイトに掲載されている大会コンテンツを他人に提供しないでください。

ライブ配信タイムテーブル

第1日目 11月27日(土)

	ミーティングルーム A	ミーティングルーム B	ミーティングルーム C	学会ミーティング
9:00-10:30	公募ワークショップ01(土-A-1) 地域における臨床倫理支援			
10:30-10:40	休憩			
10:40-12:10	公募シンポジウム01(土-A-2) 臨床倫理コンサルテーションの境界を探る	公募ワークショップ02(土-B-2) 希少難治性疾患のELSIの現在	公募ワークショップ03(土-C-2) 中・高・大学連携におけるバイオエシックス教育 ー第2弾ー	
12:10-13:50	昼食			評議員会 12:20-13:40
13:50-15:20	大会企画シンポジウム(土-A-3) 臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションの現状と課題	公募ワークショップ04(土-B-3) 配偶子提供に関わる倫理と意思決定ー躊躇と受容の要因分析	公募シンポジウム02(土-C-3) 医学研究における不適切な意思決定と組織環境の分析 ～医療従事者対象のウェブ調査から見えてきたもの～	
15:20-15:30	休憩			
15:30-17:00	国際交流委員会企画 国際シンポジウム(土-A-4) 臨床現場の改善とその課題 Ethical Problems in Clinical Settings: Burnout and Long-term Care	公募シンポジウム03(土-B-4) 第三者が関与する家族形成とセクシュアル・ライツをめぐる倫理的問題の検討 ー子供が欲しい人の想いと配偶子を提供したい人の想いー	公募シンポジウム04(土-C-4) CRB & IRB Joint conference	
				理事会 17:10-18:10

第2日目 11月28日(日)

	ミーティングルーム A	ミーティングルーム B	ミーティングルーム C	学会ミーティング
9:00-10:30	<p>公募ワークショップ05(日-A-1)</p> <p>新型コロナウイルス(COVID-19)パンデミックと当事者・市民協働参画～「命の選別」に関する徹底討議～</p>	<p>公募ワークショップ06(日-B-1)</p> <p>小児医療におけるアドバンスケア プランニングの理念定義とその主体の曖昧さ</p>	<p>研究開発委員会企画(日-C-1)</p> <p>若手優秀賞候補者セッション</p>	
10:30-10:40	休憩			
10:40-12:10	<p>公募シンポジウム05(日-A-2)</p> <p>COVID-19と終末期医療-日本、韓国、台湾と英米の比較を通して-</p>	<p>公募シンポジウム06(日-B-2)</p> <p>先進生命科学技術のデュアルユース問題と倫理規範の在り方</p>	<p>研究開発委員会企画(日-C-2)</p> <p>若手論文奨励賞受賞者を囲んで</p>	
12:10-14:00	<p>12:20-13:50 総会</p>	昼食		
14:00-15:30	<p>学会企画シンポジウム(日-A-3)</p> <p>終末期と看取りの転換期? 熟議と設計を問直す</p>	<p>公募シンポジウム07(日-B-3)</p> <p>安楽死法と「私生活の権利」-生命の権利と人間の尊厳</p>	<p>公募ワークショップ07(日-C-3)</p> <p>患者・市民が参画するアーカイブ構築と歴史的ELSI研究</p>	
15:30-15:40	休憩			
15:40-17:10	<p>公募ワークショップ08(日-A-4)</p> <p>生命倫理学の転換期 ~ <20世紀生命倫理学の地平>を今世紀にどう生かすか? 自己決定か公共選択かをめぐって!!</p>	<p>公募シンポジウム08(日-B-4)</p> <p>現代移植ツーリズムのリアリティ-渡航移植と診療拒否-</p>	<p>公募ワークショップ09(日-C-4)</p> <p>これからの患者市民参画を考える -2つの着眼点「ベネフィット」「患者市民の位置付けと役割」を拠り所にして</p>	

第1日目：11月27日（土）

9:00-10:30 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルームA 公募ワークショップ01 (土-A-1)

地域における臨床倫理支援

オーガナイザー： 竹下 啓（東海大学医学部）
報告者： 三浦 靖彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院）
長尾 式子（北里大学看護学部）
堂圃 俊彦（静岡大学学術院人文社会科学領域）
神谷 恵子（神谷法律事務所）

10:40-12:10 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルームA 公募シンポジウム01 (土-A-2)

臨床倫理コンサルテーションの境界を探る

オーガナイザー： 瀧本 禎之（東京大学大学院）
長尾 式子（北里大学）
東海大学医学部附属病院における臨床倫理コンサルテーションの境界
竹下 啓（東海大学医学部）
東京慈恵会医科大学附属柏病院における臨床倫理コンサルテーションと、その境界
三浦 靖彦（東京慈恵会医科大学）
関西医大総合医療センターでの臨床倫理コンサルテーションの境界
金田 浩由紀（関西医科大学）
北里大学病院における臨床倫理コンサルテーションの境界
長尾 式子（北里大学）

ミーティングルームB 公募ワークショップ02 (土-B-2)

希少難治性疾患のELSIの現在

オーガナイザー： 山本 圭一郎（国立国際医療研究センター）
松井 健志（国立がん研究センター）
報告者： 河村 裕樹・鈴木 将平（一橋大学・国立国際医療研究センター）
高井 ゆと里（石川県立看護大学）
渡部 沙織（東京大学医科学研究所）

ミーティングルームC 公募ワークショップ03 (土-C-2)

中・高・大学連携におけるバイオエシックス教育 —第2弾—

オーガナイザー： 丸山 マサ美（九州大学大学院医学研究院）
報告者： 鈴木 美香（京都大学 iPS 細胞研究所）
川勝 和哉（兵庫県立姫路東高等学校）
丸山 マサ美（九州大学大学院医学研究院）
コメンテーター： 木村 利人（早稲田大学）

13:50-15:20 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルーム A 大会企画シンポジウム (土-A-3)

臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションの現状と課題

オーガナイザー： 前田 正一 (慶應義塾大学大学院)
樽井 正義 (慶應義塾大学)

臨床倫理委員会の現状と課題

丸山 英二 (神戸大学)

臨床倫理コンサルテーションの現状と課題

長尾 式子 (北里大学)

臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーション — 刑事責任からの防壁？

井田 良 (中央大学)

ミーティングルーム B 公募ワークショップ 04 (土-B-3)

配偶子提供に関わる倫理と意思決定—躊躇と受容の要因分析

オーガナイザー： 小門 穂 (神戸薬科大学薬学部)
報告者： 小門 穂 (神戸薬科大学薬学部)
洪 賢秀 (明治学院大学社会学部附属研究所)
柘植 あづみ (明治学院大学社会学部)

ミーティングルーム C 公募シンポジウム 02 (土-C-3)

医学研究における不適切な意思決定と組織環境の分析 ～医療従事者対象のウェブ調査から見えてきたもの～

オーガナイザー： 瀬戸山 晃一 (京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学)
項目反応理論を用いた研究倫理評価尺度の検討
吉井 健悟 (京都府立医科大学医学研究科生命基礎数理学)
研究倫理に対する規範意識の評価におけるグレーディング (段階評価) の設定とオリジナリティ
景山 千愛 (京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学)
医学研究における「隠れたカリキュラム」の可視化の試み
四宮 康亮 (京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学)

15:30-17:00 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルーム A 国際交流委員会企画 国際シンポジウム (土・A-4)

臨床現場の改善とその課題

Ethical Problems in Clinical Settings: Burnout and Long-term Care

Organiser: International Collaboration Committee

Cindy C. Bitter (Saint Louis University), “The business (ethics) case for promoting wellbeing of medical staff.”

Francisca Stutzin Donoso (University College London), “Dynamic equilibrium and competing demands: how people with chronic diseases manage to live lives they have reason to value.”

Commentator: Aya Enzo (Tohoku University)

Noriko Nagao (Kitazato University)

ミーティングルーム B 公募シンポジウム 03 (土・B-4)

第三者が関与する家族形成とセクシュアル・ライツをめぐる倫理的問題の検討

—子供が欲しい人の想いと配偶子を提供したい人の想い—

オーガナイザー： 入澤 仁美 (順天堂大学)

「ART(生殖補助技術)利用における多元主義から考える、社会における子どもの意義の検討」

村岡 潔 (岡山商科大学)

子どもを持ちたい LGX とその実現可能性 —情報と自己決定—

稲垣 恵一 (静岡文化芸術大学・日本赤十字豊田看護大学)

非同性愛者の訴えに見られる異性愛主義的社会の歪みについて—若年女性の心理支援を通して

水野 礼 (名古屋市立大学・名古屋大学大学院)

誰かの役に立ちたい・子孫を残したい「卵子ドナーの心理」～NPO 法人 OD-NET の活動を通じて～

岸本 佐智子 (NPO 法人卵子提供登録支援団体)

ミーティングルーム C 公募シンポジウム 04 (土・C-4)

CRB & IRB Joint conference

オーガナイザー： 旗手 俊彦 (札幌医科大学)

医学研究倫理審査における一括審査の課題——米国での経験と議論

丸山 英二 (神戸大学名誉教授)

中央一括審査の課題と展望：運用上の視点から

河原 直人 (九州大学病院)

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」下での審査

～北海道大学病院における審査体制と見えてきた課題～

西岡 美登里 (北海道大学病院 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構)

第2日目：11月28日（日）

9:00～10:30（ZOOM ライブ配信）

ミーティングルームA 公募ワークショップ05（日-A-1）

新型コロナウイルス(COVID-19)パンデミックと当事者・市民協働参画 ～「命の選別」に関する徹底討議～

オーガナイザー： 北原 秀治（東京女子医科大学先端生命医科学研究所先端工学外科学分野）
報告者： 杉原 正子（独立行政法人国立病院機構東京医療センター）
細田 満和子（星槎大学）
宿野部 武志（一般社団法人ピーペック）

ミーティングルームB 公募ワークショップ06（日-B-1）

小児医療におけるアドバンス ケア プランニングの理念定義とその主体の曖昧さ

オーガナイザー： 笹月 桃子（西南女学院大学 保健福祉学部・九州大学病院 小児科）
報告者： 成本 迅（京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学）
櫻井 浩子（東京薬科大学 薬学部）
横野 恵（早稲田大学 社会科学総合学院）
笹月 桃子（西南女学院大学 保健福祉学部・九州大学病院 小児科）

ミーティングルームC 研究開発委員会企画（日-C-1）

若手優秀賞候補者セッション

座長： 高島 響子（国立国際医療研究センター）
高橋 尚人（東京大学医学部附属病院）

自発的飲食拒否の現状と許容可能性についての検討

荻野 琴（京都大学大学院文学研究科）

ウェアラブルデバイスから収集される生体情報

—アスリートからの収集・共有・利活用の際の法的倫理的社会的課題の整理とガバナンス体制の現状分析—

後藤 新人（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）

ゲイ男性の家族形成および生殖補助医療利用に関する文献研究—海外の意識調査を中心に—

島崎 美空（熊本大学大学院医学教育部）

生命倫理におけるフェミニスト・アプローチとしての関係的自律とその展開

富岡 薫（慶應義塾大学大学院文学研究科・国立がん研究センター）

10:40~12:10 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルーム A 公募シンポジウム 05 (日-A-2)

COVID-19 と終末期医療 -日本、韓国、台湾と英米の比較を通して-

オーガナイザー： 児玉 聡 (京都大学大学院)

COVID-19 が終末期医療にもたらした影響-日本と英米における相違点と共通点-

田中 美穂 (日本医師会総合政策研究機構/立命館大学大学院)

COVID-19 が終末期医療にもたらした影響-韓国の「延命医療決定法」の諸課題-

洪 賢秀 (明治学院大学/東京大学医科学研究所)

COVID-19 が終末期医療にもたらした影響-台湾の法制度への挑戦と課題-

鍾 宜錚 (大谷大学真宗総合研究所東京分室)

ミーティングルーム B 公募シンポジウム 06 (日-B-2)

先進生命科学技術のデュアルユース問題と倫理規範の在り方

オーガナイザー： 四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)

三成 寿作 (京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門)

合成生物学に期待される役割

木賀 大介 (早稲田大学 理工学術院)

感染症研究のデュアルユース問題

花木 賢一 (国立感染症研究所 安全実験管理部)

先進生命科学のバイオエシックス

河原 直人 (九州大学病院 ARO 次世代医療センター)

デュアルユース問題と科学技術コミュニケーション

川本 思心 (北海道大学 大学院理学研究院)

ミーティングルーム C 研究開発委員会企画 (日-C-2)

若手論文奨励賞受賞者を囲んで

臨床研究からの妊婦の排除という倫理的問題

高井 ゆと里

遺伝情報の利用規制がもたらす課題

—先天性異常による免責が争われた裁判例を踏まえた考察—

村岡 悠子

座長： 有江 文栄 (国立精神・神経医療研究センター)

佐藤 雄一郎 (東京学芸大学)

14:00～15:30 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルーム A 学会企画シンポジウム (日-A-3)

終末期と看取りの転換期？ 熟議と設計を問い直す

オーガナイザー： 美馬 達哉 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)
改めてアドバンスケアプランニングという実践を考える

鶴若 麻理 (聖路加国際大学)

〈反延命〉主義の展開とコロナ禍での現状

堀江 宗正 (東京大学)

指定発言： 宿野部 武志 (一般社団法人ピーペック)

ミーティングルーム B 公募シンポジウム 07 (日-B-3)

安楽死法と「私生活の権利」 — 生命の権利と人間の尊厳

オーガナイザー： 盛永 審一郎 (元富山大学)

オランダ安楽死の法と倫理

盛永 審一郎 (元富山大学)

ヨーロッパ人権条約 8 条の射程 — 「私生活の尊重」に基づく死をめぐる決定

小林 真紀 (愛知大学)

安楽死と「私生活を尊重される権利」 — ベルギーにおける法的状況

本田 まり (芝浦工業大学)

ドイツ連邦裁判所判決の投げかけるもの

品川 哲彦 (関西大学)

ミーティングルーム C 公募ワークショップ 07 (日-C-3)

患者・市民が参画するアーカイブ構築と歴史的 ELSI 研究

オーガナイザー： 松原 洋子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

報告者： 後藤 基行 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

渡部 沙織 (東京大学医科学研究所)

15:40～17:10 (ZOOM ライブ配信)

ミーティングルーム A 公募ワークショップ 08 (日-A-4)

生命倫理学の転換期

～〈20世紀生命倫理学の地平〉を今世紀にどう生かすか？ 自己決定か公共選択かをめぐって!!

オーガナイザー： 村岡 潔 (岡山商科大学法学部)

報告者： 大林 雅之 (東洋英和女学院大学)

安藤 泰至 (鳥取大学医学部)

美馬 達哉 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

現代移植ツーリズムのリアリティ ー渡航移植と診療拒否ー

オーガナイザー： 宍戸 圭介 (岡山商科大学法学部)

中国での腎臓移植手術後の日本国内継続治療の現状

S (静岡県在住)

海外渡航移植患者からの帰国後のフォローアップの求めを、医療機関が自院の申合せ (内規) に基づいて断ったことが争われた裁判例について

宍戸 圭介 (岡山商科大学)

診療拒否にまつわる倫理問題ーアジア渡航移植患者帰国後診療拒否は倫理的に正しいかー

栗屋 剛 (岡山商科大学法学部)

アメリカ合衆国におけるメディカルツーリズムと治療の連続性

加藤 穰 (滋賀医科大学医学部)

これからの患者市民参画を考える

ー2つの着眼点「ベネフィット」「患者市民の位置付けと役割」を拠り所にして

オーガナイザー： 加藤 和人 (大阪大学大学院医学系研究科)

古結 敦士 (大阪大学大学院医学系研究科)

報告者： 古結 敦士 (大阪大学大学院医学系研究科)

磯野 萌子 (大阪大学大学院医学系研究科)

相京 辰樹 (大阪大学大学院医学系研究科)

山本 ベバリー・アン (大阪大学大学院人間科学研究科)

一般演題（オンデマンド配信）

A. 生命倫理の基本概念, 先端医療技術, 生命倫理教育

A01. アニメ『ミュウツールの逆襲』と反出生主義

水島 淳（反出生主義研究会主催者）

A02. ワイマール共和制期ドイツにおける教会外宗教運動と優生思想・人種主義

宮嶋 俊一（北海道大学大学院文学研究院）

A03. インテグリティ原則の三位一体構造について —グローバル・バイオエシックスからの考察

宮島 光志（富山大学学術研究部薬学・和漢系）

A04. 偶発的所見・二次的所見の返却における非医学的対処可能性の検討

大橋 範子（大阪大学データビリティフロンティア機構）

A05. 放射線被ばくと生命倫理学 —行動経済学の援用による問題点の解決法について—

亀井 修（京都府立医科大学大学院医学研究科医学生命倫理学、日本文理大学）

瀬戸山 晃一（京都府立医科大学大学院医学研究科医学生命倫理学）

A06. 高校「生物基礎」の教科書に脳死はどう登場したか

白石 直樹（東京都立淵江高等学校）

B. 研究倫理

B01. 倫理審査専門職 CREP の取り組み

江花 有亮（東京医科歯科大学）

横野 恵（早稲田大学）

神里 彩子（東京大学医科学研究所生命倫理研究分野）

B02. 倫理委員会は規制対象外の研究にどのように対応しているか

堂園 俊彦（静岡大学学術院 人文社会科学領域）

渡邊 達也（北里大学医学部附属臨床研究センター企画開発部門）

中田 亜希子（東邦大学医学部医学教育センター）

氏原 淳（北里大学北里研究所病院臨床研究適正運用管理室）

有田 悦子（北里大学薬学部薬学教育研究センター医療心理学部門）

B03. 基礎医学研究における P P I の課題と実践

佐藤 桃子^{1,2}

楠瀬 まゆみ^{1,3}

大木 美代子³

古野 正朗³

（1 東京大学医科学研究所公共政策研究分野 2 理化学研究所生命医科学研究センター免疫転写制御研究チーム 3 理化学研究所生命医科学研究センターセンター長室）

B04. 質の高い多機関共同研究を実施するための課題と方策

～一括審査原則化の含意：研究現場の視点から～

鈴木 美香（京都大学 iPS 細胞研究所 上廣倫理研究部門、医療応用推進室）

南 真祐（京都大学 iPS 細胞研究所 医療応用推進室）

B05. 自己所有権から見た臨床研究におけるインフォームド・コンセントの倫理的意義

種田 佳紀 (埼玉医科大学)

B06. 薬学生を対象とする研究の倫理的配慮に関する実態調査

大原 里佳 (東京薬科大学)

櫻井 浩子 (東京薬科大学)

B07. 高齢者対象の臨床研究における同意能力評価に関する文献調査

脇之菌 真理 (藤田医科大学 研究支援推進本部/国立長寿医療研究センター)

村井 はるか (藤田医科大学 医療科学部 医療経営情報学科)

B08. オープンデータに関する一般市民の意識調査

有澤 和代 (東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 生命倫理研究分野)

神里 彩子 (東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 生命倫理研究分野/研究倫理支援室)

B09. バイオバンク管理者の機能に関する調査

奥井 ひかり (京都大学大学院医学研究科)

B10. ヒト胚ゲノム編集の研究ガバナンスにおける政府と科学コミュニティの関り

相京 辰樹 (大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学)

古結 敦士 (大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学)

加藤 和人 (大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学)

C. 臨床倫理, 看護倫理

C01. 臨床倫理コンサルタントに必要な資質

金田 浩由紀 (関西医科大学総合医療センター)

武 ユカリ (関西医科大学看護学部)

**C02. 臨床倫理コンサルテーションにおいて倫理支援を行うメンバーが必要とするコンピテンシー
～コンピテンシーを発揮できるための実効性のある組織体制とは～**

三浦 由佳里 (宮崎大学医学部附属病院 臨床倫理部)

板井 孝孝郎 (宮崎大学医学部附属病院 臨床倫理部)

綾部 貴典 (宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部/臨床倫理部)

深谷 基裕 (愛知医科大学 看護学部 母子看護学講座)

C03. 当院における臨床倫理コンサルテーションチーム (ECT) これまでの足跡・これからの道標

井上 健太郎 (川崎市立川崎病院臨床倫理コンサルテーションチーム)

鳥海 幸恵 (川崎市立川崎病院臨床倫理コンサルテーションチーム)

C04. 倫理コンサルテーションチーム活動が職員の倫理的行動に与える効果：前向き観察研究

恋水 諄源 (近江八幡市立総合医療センター 倫理コンサルテーションチーム)

山本 千明 (市立福知山市民病院 倫理コンサルテーションチーム)

向山 和加乃 (市立福知山市民病院 倫理コンサルテーションチーム)

山本 真世 (市立福知山市民病院 倫理コンサルテーションチーム)

中村 紳一郎 (市立福知山市民病院 倫理コンサルテーションチーム)

大出 順 (帝京科学大学医療科学部看護学科)

C05. COVID-19 呼吸不全治療におけるインフォームド・コンセントの実態調査

甲畑 (照井) 宏子 (東京医科歯科大学生命倫理研究センター)
小峯 真理子 (東京医科歯科大学生命倫理研究センター)
神里 彩子 (東京大学医科学研究所先端医療研究センター生命倫理研究分野)
吉田 雅幸 (東京医科歯科大学生命倫理研究センター)

C06. 訪問看護師が体験する倫理的問題の特徴 —病院看護師との比較を通じて—

本家 淳子 (浜松医科大学医学部周術期等生活機能支援学講座)
堂園 俊彦 (静岡大学大学院人文社会学領域)

C07. 計量テキスト分析と質的分析の比較による看護倫理の主要概念の考察

平木 早紀 (放送大学大学院文化科学研究科)
川原 靖弘 (放送大学大学院文化科学研究科)

C08. 病院看護師の道徳的感受性、倫理的行動の基礎調査 —手術室看護師の特性—

中尾 久子 (第一薬科大学看護学部看護学科)
金岡 麻希 (宮崎大学医学部看護学科)
木下 由美子 (宮崎大学医学部看護学科)
潮 みゆき (福岡女学院看護大学看護学部)
青本 さとみ (九州大学医学部保健学科看護学専攻)
酒井 久美子 (九州大学医学部保健学科看護学専攻)

D. 生殖医療, 産育, 家族

D01. ヒト胎児組織を用いる研究をめぐる近年のアメリカの動向

由井 秀樹 (山梨大学)
山縣 然太朗 (山梨大学)

D02. 出生前遺伝学的検査のガバナンスにおける用語「マススクリーニング」の言説分析

佐藤 桃子^{1,3}
神里 彩子²
武藤 香織³
(1 東京大学大学院学際情報学府 2 東京大学医科学研究所生命倫理研究分野 3 東京大学医科学研究所公共政策研究分野)

D03. 台湾の育児書における高齢妊娠と出生前診断

笹谷 絵里 (花園大学)

D04. ドイツで非配偶者間人工授精で生まれた成人が経験する「知ること」・「知らないこと」をめぐる家族内力動

トビアス・バウアー (熊本大学大学院人文社会科学部)
アンネ・マイヤー＝クレドナー (ブラウンシュヴァイク工科大学生命科学部)

D05. 現実において「人工妊娠中絶は許容可能か」を問うために —人工妊娠中絶をめぐる倫理的論点—

鹿野 祐介 (大阪大学社会技術共創研究センター)

D06. 天命を持つ中絶あるいは出産の考察 —人生 100 年時代の社会構想における方向性の転換

貞岡 美伸 (立命館大学 生存学研究所 / 京都光華女子大学)

E. 終末期医療

E01. アドバンス・ケア・プランニングの時相

金田 浩由紀 (関西医科大学総合医療センター)
大上 千賀 (関西医科大学総合医療センター)
武 ユカリ (関西医科大学看護学部)

E02. なぜ、オーストリアは、自殺幇助罪を違憲と判断したのか — 当地の医師介助自殺に寛容な判例動向の分析

神馬 幸一 (獨協大学法学部)

E03. 「安楽死」は安楽なのか？

安藤 泰至 (鳥取大学医学部)

F. ケア, 介護, 福祉

F01. 医療的ケア児と参加・地域共生を進める音楽活動と課題： 教職員志望生を中心としたキャリア教育にかかわる検討を中心に

山本 智子 (国立音楽大学)

F02. 多様化する「家族」とケアの倫理 ——共同意思決定における「家族」の拡張とその課題

秋葉 峻介 (山梨大学/立命館大学)

F03. ホームレス支援ボランティアの動機と継続理由～ケアの倫理への示唆～

神徳 和子 (帝京大学福岡医療技術学部看護学科)

G. 医療経済, 資源配分, 公共政策

G01. 「持続可能な国民皆保険」のための一考察

森 禎徳 (群馬大学大学院医学系研究科)

G02. 医療資源の共有と配分のあり方に関する検討 —平常時と非常時の医療の相違に着目して—

中島 範宏 (東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座)

G03. 難治性希少疾患の治療研究・開発における ELSI —SMA 治療薬ゾルゲンスマを事例に考える—

高島 響子 (国立国際医療研究センター)
荒川 玲子 (国立国際医療研究センター)
山本 圭一郎 (国立国際医療研究センター)

G04. ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンに関する公正な情報共有に向けて

廣瀬 一隆 (京都府立医科大学医学生命倫理学 (人文・社会科学教室))
瀬戸山 晃一 (京都府立医科大学医学生命倫理学 (人文・社会科学教室))

G05. COVID-19 ワクチンパスポートの倫理的検討

鈴木 英仁 (京都大学大学院文学研究科)